

A-74 加工食品に関する研究(第2報) — インスタントラーメン —

聖徳学園女子短大 高井富美子 出羽京子 古橋優子

○村岡敏子 松井泰子

目的 加工食品の多様化が限りなく進みつゝある今日、その中でも簡便さと若者の嗜好がうまく調和されたインスタントラーメンは、インスタント食品の中で大きな位置を占めている。オ1報において短大生を中心にその使用状況、意識、塩分含量、イメージ等について報告した。本報は、その結果に基づき、短大生の弟・妹にあたる中・高校生を対象に使用状況、意識について調査した。

方法 昭和55年5月17日～5月27日の期間に、岐阜市内の中学生(男女各100名)、高校生(男女各100名)の計400名を対象としてイメージの測定、摂取形態、意識等に関するアンケート調査をし、統計処理を行った。

結果 ①インスタントラーメンに対しては、全対象者とも、体のために悪く、栄養価が低く、質素である反面、便利で若者向きであるというイメージを持っていた。

②食する理由としては簡単につくれる為としており、約80%の若者が軽食がわりとして摂取していた。

③スープの塩味は、中・高校生を問わず、男子の方がうすいというイメージをもっており、摂取量調査においても男女間に差が認められ、男子の方が多く摂取していた。

④喫食状況は中・高校生を問わず男女間で差が認められ、1週間で平均男子1.3コ、女子0.75コであった。